

【まちの動きを調査】

常任委員会クローズアップ 民生常任委員会のうごき



保健福祉センター（多目的ホール）

『幕別町発達支援センター』を現地視察 ～所管事務調査（令和2年8月19日）～

今号では「幕別町発達支援センター」（新町：保健福祉センター内）視察の様子を紹介します。また、9月には忠類地域の子どもたちが利用する大樹町にある「南十勝子ども発達支援センター（むうく）」を訪問しています。

発達支援センターは、発達の遅れやことば、人との関わりに困りごとを抱える子どもやその保護者を支援する施設です。

8月19日に委員6人で視察し、センター職員から次のような説明を受けました。

「発達障害者支援法」（H17）により、発達の遅れや障がいのある児童に対しての早期発見・早期支援は、国や地方公共団体の責務としています。幕別町でも支援法を受け「幼児ことばの教室」を発展的に継承し、H24年に現在の発達支援センターを設置しました。

職員はセンター長、保育士、臨床心理士など9人。18才までを対象とし相談件数は昨年度349件。

1歳6カ月児健診や3歳児健診、小中学校、保育所・幼稚園への巡回を通じて困りごとを抱える子どもに早期に対応したり、保護者からの相談を受け継続的に支援するなど関係機関と連携して切れ目のない支援を行っています。また、発達支援講演会などの研修や啓発事業を行ったり、「子どもの育ちをささえる親の会」の運営補助も行っています。

説明を受けた後、マジックミラーを設置した指導室、落ち着いて課題や発達検査に取り組める検査室、集団療育ができる遊戯室を視察しました。

民生常任委員会は、地域防災、健康づくり、福祉、交通、環境衛生など幅広い分野を所管しています。中でも令和元～2年度の重点活動テーマを「認定子ども園整備事業について」とし、町内の保育所・保育園や町外の施設への視察など2年間の計画に沿って調査研究を行い、町内の子どもたちにとって最善の方向性が示せるよう活動をしています。



発達支援センター（検査室）

◆委員からの主な質疑（抜粋）

Q：相談や療育件数が増えている、職員体制は十分か。

A：発達障害への認識が広がるとともに利用者が増えている。今年度、臨時保育士を1名から2名体制とした。当面はこの体制で進め、今後については受入体制の検討を行っており、職員体制も考えていきたい。

Q：保護者への支援内容は。

A：保護者自身が人との関わりが苦手、家での子どもとの関わり方が分からずに困っているなどの声がある。保護者対象のペアレント・トレーニング（子どもに合わせた効果的なほめ方や伝え方を保護者が身に付けることを目指すもの）を試行的に取り組むなど支援に力を入れている。



発達支援センター（遊戯室）

編集後記

「新しい生活様式」の中で、議会活動も慎重に感染予防策を取りながら少しずつ歩み始めています。コロナ禍の中、中高齢者の皆さまの在宅時間が多くなり、心身の衰えが懸念されております。まだまだ予断を許さない状況ではありますが、少しずつ外出も増やしながら、地域の皆さん同士で、マスク越しでも分かるような明るい笑顔の挨拶を交わし続けたいものですね。時には議会にもお越しいただければ幸いです。

若山和幸・小田新紀

議会広報広聴委員会

委員長 内山美穂子 副委員長 荒 貴賀
委員 石川康弘 小田新紀 小島智恵 若山和幸
岡本真利子 酒井はやみ 小川純文

表紙写真募集

No. 202号（2月1日発行）の表紙写真を募集しています。写真のテーマは「**十勝の冬**」です。応募は、下記のQRコード等によりご応募ください。締切は、令和3年1月8日（金）です。詳しくは、議会ホームページをご覧ください。

ご意見をお寄せください

「議会だより」への
ご意見・ご感想、「議会」への質問など、みなさんの声をメール、電話（左側に記載）などでお寄せください、お待ちしております。



議会メール

議会ホームページ